



悠優かしま 施設長
(2025年9月1日～ 法人事務局 事務局長)

貝川 幸利

2002年(平成14年)に社会福祉法人千寿会へ入職し、現在は悠優かしまの施設長を務めている貝川幸利さん。長く勤めた営業職を離れ、福祉業界へと足を踏み入れたのは、思いがけない縁がきっかけでした。右も左もわからなかった入職当時、白石理事長からかけられたある言葉を胸に、これまで介護の仕事に励んできたそうです。その足跡を辿りつつ、知られざる一面に迫ります。

まずは、入職の経緯をお聞かせください。

実は、白石理事長は高校の同級生。もともとは私の知人が医療福祉関係の仕事を探していたため、「もしも人を募集する場合は、声をかけてほしい」と白石理事長に頼んでいました。しばらくして連絡をもらったとき、知人はすでに次の仕事に就いた後でした。私から頼んでいたのに申し訳ないと思い、冗談まじりに「人が足りないなら俺を雇えばいいじゃないか」と返した言葉がきっかけ

となり、入職に至ったのです。

後から聞いた話では、先代の理事長に思惑があったようで、営業職で培った私のコミュニケーション能力に期待されたとのこと。当時は介護保険の改定など、制度上のさまざまな変革があった時期でした。そこで、ご家族様に向けた説明をしなければならず、対話力のある人材を求めているそうです。

慣れない仕事での苦勞を、どのように乗り越えたのでしょうか。

介護の現場に配属された私を指導してくれたのは、私よりも年齢の若い先輩職員たちでした。先輩相手ですから当然敬語で話しかけるのですが、皆さんには「敬語を使わないでください」と言われたものです。そこであえて「大型新人なのでよろしくお願いします」と軽口を叩きながら教わったことが、懐かしく思い出されます。

介護に携わる中で苦勞したのは、利用者様との



▲2025年5月デイサービス運動会にて
借り物競争に参加
お題「黒い靴を履いた施設長」

関わり方。たとえば「トイレに行きましょう」「お風呂に入りましょう」と声をかけても、なかなか理解してもらえないケースが多々ありました。毎日がその繰り返しで、接し方に悩んでいたのを覚えています。

そうした思いを抱えていた時期に心に響いたのは、白石理事長からかけられた2つの言葉。「介護というのは、感性が大事」と「利用者様を説得するのではなく、納得してもらえ」です。感性とはどういうことだろうかと考え、自分なりに出した答えは「利用者様がこう言われたら、どういう気持ちになるか」を想像しながら接すること。また、説得と納得では、最終的な結果は同じでも、そこに至るまでの気持ちがまったく違います。そのことに、理事長の言葉で気付かされたのです。

これまでのご経験で、成果をあげた仕事について教えてください。

7～8年前、総務の仕事を担当していたときに、メモリアル休暇を導入しました。これは前職での制度を参考にしたもので、記念日に休みを取って、旅行に出かけたり食事に行ったりと、自分のための時間に使うことを目的としています。

それまでの千寿会は、シフト勤務の都合上、有給休暇が取りづらい状況にありました。そこで有休消化率を上げるため、導入を提案したのです。初年度はまず4日間で設定し、好評を得た結果、

今では年間9日間のメモリアル休暇が職員たちに付与されています。1年の始めに休みの予定を提出するため計画が立てやすく、旅行やコンサートなど、過ごし方は皆それぞれ。制度が浸透したことにより、今では「休みを取って当たり前」という社内風土になりました。職員たちのモチベーションアップにも、一役買っているのではないのでしょうか。

最後に、今後の目標をお願いします。

これからは、福祉業界も雇用難になっていくでしょう。そのため、福利厚生などを充実させ、魅力ある働きやすい職場づくりに力を入れるつもりです。

そして、千寿会のモットーは、とにかく「やってみる」こと。職員の皆さんも何かアイデアがあれば、ぜひ相談してください。初めは悠優かしまの中で試してみて、もしもダメだったら元に戻せばいいだけです。また、試してみたからこそ、前の方が良かったと気付く場合もあるでしょう。その行動から得られるものは、決してゼロではないのです。どのような提案でも「ノー」とは言わず、まずは受け入れるので、皆でより良い千寿会を目指していきましょう。

施設長として、安全・安心な施設の提供を目指したいと語る貝川さん。その視線は、千寿会の未来を真っ直ぐに見据えています。



▲2024年8月デイサービス夏祭りにて
屋台で焼き鳥を担当

密着

笑顔が届ける リーダーの1日

「恥ずかしがる方が、逆に恥ずかしい」。そう語る陽光園東館の甲斐さん。周囲を明るく照らすコミュニケーションの裏側には、どのような想いがあるのでしょうか。リーダーとしての1日と、その笑顔の源に迫ります。

特別養護老人ホーム
陽光園東館 リーダー

かい えいじ
甲斐 英二さん



1日のスケジュール

9:00

出勤

夜勤職員からの申し送りを受け、朝食の提供や口腔ケア、トイレ・入浴介助へ

11:00

午前のレクリエーション

体操や歌のレクリエーションで利用者様と交流

12:00

昼食準備と介助

14:00

午後のレクリエーション

ホットケーキ作りやカラオケ

16:00

トイレ介助やパッド交換

17:00

夕食準備と介助

18:00

退勤



大切にしているのは……

朝のふれあいルーティーン

欠かさず行っているのは、出勤してすぐに、利用者様お一人おひとりにご挨拶に伺うことです。直に顔を合わせると、「今日は少し顔色が違うな」「熱があるのかもしれない」といった変化を察知できます。朝のひとつときは、適切なケアへつながる大切な時間です。

こんなことにも力を入れています！

信頼の芽吹きは「顔と名前」から

ご家族様とのコミュニケーションも、常に工夫が必要です。万が一トラブルがあった際も、日頃から信頼関係が築けていればスムーズに連携できます。敬老会や餅つき行事では、多忙でお会いする機会の少ないご家族様とも顔を合わせ、さりげなくお声がけするようにしています。

今日からできる雰囲気づくりの ファーストステップ

率先して笑顔の輪を 広げていきましょう

職員の顔が曇っていると、利用者様も気を使ってしまうのではないのでしょうか。大切なのは、微笑みを絶やさず、誰もが話しかけやすい空気をつくることだと思います。皆で同じ時間を共有するなら、少しでも楽しい方が良い。そうしたシンプルな考え方が、心地良い雰囲気をつくる近道なのかもしれません。

予期せぬ

トラブルを乗り越えるために……

リーダーとして日々、自問自答する

職員の皆さんは、それぞれ主体性を持って業務に臨んでいるため、私が細かく指示することはあまりありません。だからこそ、「リーダーとして、皆の期待に応えられているだろうか」「ついてきてくれる職員は不安に思っていないだろうか」と、定期的に振り返るようにしています。現状に満足せず、チームをしっかりと牽引する存在になることが課題であり目標です。



周囲に元気を届けるコツ

周囲の笑顔を引き出す存在でいたい

ムードメーカーと言われることがあります。自分では楽家でお調子者だと捉えています。意識しているのは、出勤後は「仕事のスイッチ」を入れ、笑顔でいることです。また、場を和ませるためのユーモアも忘れません。恥ずかしがって躊躇するくらいなら、勇気を出して周囲の笑顔を引き出す存在でいたいと考えています。利用者様からは「あと30年早く出会いたかった」と、愛のあるお言葉をいただくこともあります。軽妙なやり取りを通じて、皆さんに少しでも穏やかな時間を過ごしていただけたら幸いです。

＼「楽しそう」が原動力／

私のポジティブマインド術

「やらずに後悔するより、やって後悔したい」そう語る柚留木さん。
子どもの頃から変わらないという持ち前の明るさが印象的です。
職場で披露した見事なダンスも含め、ポジティブな連鎖を生む秘訣を伺いました！

ポジティブさの源泉

子どもの頃から明るい性格で、昔から自然と前向きに物事を捉えてきました。特に意識しているわけではなく、寝てしまえば嫌なことも忘れるくらいです。
もちろん、仕事では気持ちがめげそうになる場面もあります。そうしたときは1人で抱え込まず、周囲を頼ってポジティブさを取り戻すようにしています。

落ち込んだときのリカバリー法

逆転の発想で乗り越える

職場の悩みは、同僚に打ち明けるのが一番ではないでしょうか。
ある利用者様との間にすれ違いがあり、半年ほど距離ができてしまった時期がありました。同僚に相談したところ、「避けるのではなく、あえて積極的に関わって笑顔を引き出していこう」とアドバイスを受けました。逆転の発想に驚きましたが、その後は少しずつ挨拶や接点を増やせるようになり、積極的なコミュニケーションの大切さを実感した経験です。
また、趣味であるカラオケも気分転換に役立っています。お気に入りの曲は、菅田将暉さんの「さよならエレジー」です。友人とでも1人でも、思い切り声を出すことでリフレッシュしています。

法人で作成したダンス動画について

「楽しそう」がチャレンジの原点

ダンスは高校の体育の授業で経験した程度で、ほぼ未経験でした。法人ホームページ用の動画を撮影する企画で「一緒に踊ろうよ」と声をかけられたときは、ためらいより「楽しそう」という好奇心が勝り、参加を決めました。
お題はBTSの曲。終業後に自宅で1週間練習を重ね、本番に臨みました。恥ずかしさもあったものの、周囲からは「よく覚えられたね」「ちゃんと練習したんだね」と褒めていただきました。



職員の皆さんへ

私が大事にしているのは、「やらずに後悔するより、やって後悔したい」という気持ちです。仕事では、どうしても前を向けないこともあります。それでも、毎日の中に隠れている「ちょっとした楽しさ」を見つけながら、共に乗り越えていけたら嬉しく思います。



特別養護老人ホーム
悠優かしま
ゆるき
柚留木 くみさん



▲ダンス動画

私を動かす 「推し」の力！

私の推し SUPER BEAVER

実写映画『東京リベンジャーズ』の主題歌「名前を呼ぶよ」を聴き、SUPER BEAVERに夢中になりました。約4年前からSUPER BEAVERの音楽に魅了されていますが、その一番の魅力は、カッコいい楽曲はもちろんのこと、聴く人自身を肯定し、応援してくれるような歌詞が多いことです。普段は通勤中に車でよく聴いています。最近のお気に入り、テレビのテーマソングにもなっている「主人公」。朝から流れるこの曲は、明るいテンポと「世界の中心はいつだって自分だよって。僕で君であの人だ」という歌詞が特徴です。自分自身が主人公だと感じさせてくれる応援歌で、毎日の活力になっています。

「推し」に関するエピソード

SUPER BEAVERがつないだ縁

ライブには、いつも友人と3人で行っています。そのうちの1人は、SUPER BEAVERのライブがきっかけで知り合った友人です。
この出会いから交友関係が広がり、一緒に食事に出かけるなど、良いきっかけになったと実感しています。カフェや居酒屋では、



SUPER BEAVERのライブや思い出話で盛り上がるのが恒例です。特に印象深いのは、2025年6月に開催された20周年ライブです。初のスタジアム単独公演で花火が打ち上がり、その演出が心に残っています。千葉のZOZOマリンスタジアムまで遠征したのは初めての経験でした。

最近ハマっている料理

夏にオススメの「茄子の揚げびたし」

茄子と獅子唐を油で軽く炒めてから、麺つゆなどに浸して食べるのがおすすめです。
おいしく作るポイントは、油を多めにして揚げ焼きのようにし、しっかり焼き目をつけることです。こうすることで味がよく染み込み、美味しく仕上がります。

日々の仕事や生活に彩りを与え、活力をくれる存在「推し」。今回は、栄養士として活躍する松本さんに、その情熱の源について話を伺いました。松本さんの心を掴んで離さない「推し」の魅力に迫ります。



コミュニティハウスみんなの家
栄養課 栄養士
まつもと あやか

松本 彩加さん

「推し」の存在

朝の始まりを彩るSUPER BEAVER

「明日も頑張ろう」という気持ちにさせてくれる曲、それがSUPER BEAVERの「主人公」です。この曲は『めざましテレビ』のテーマソングとして、毎朝、番組の随所で流れています。YouTubeではミュージックビデオも公開されています。舞台裏を思わせるセットで、多くの人々が登場する華やかな演出が印象的です。表舞台だけでなく、あえて裏側を見せる構成も魅力の一つです。

